

第4回大和川流域委員会 議事概要

開催日時：平成17年1月28日(金)9:30～12:30

場所：大阪厚生年金会館ウェルシティ大阪7階フロールAB

委員出席数：出席11名、欠席6名

1. 議事

(1) 第3回大和川流域委員会審議報告

第3回大和川流域委員会審議報告がなされた。

(2) 委員からの情報提供「特徴・歴史」、「環境」

(a) 黒田委員：「付替250年碑文及びその他の歴史記述の間違いについて」、「大和川付替工事と被差別部落の形成」

付替300年においても歴史的に誤りと思われる状況の改善がそれほど大きく取り上げられなかった。したがって、より正確な史実に基づいてはっきりさせるべきでないか。

大和川付替工事によって被差別部落がつけられた地域では、部落解放運動の町づくりの中で、川の空間利用が考えられている。

(b) 谷委員：「大和川の生き物と水質」

大和川の昆虫、魚類、植物、外来種の状況、生物と水質との関連などを紹介。大和川は生物がすむ環境としてはすばらしい多様性がある。水質をより適切に保てば、すばらしい大和川ができるのではないか。

(3) 大和川の現状説明「環境」

河川管理者から「環境」についての大和川の現状説明がなされた。

(4) 大和川の「特徴・歴史、空間利用、環境」についての意見交換の要旨

(a) 特徴・歴史

- ・ 300周年の1年間ですべて解決はしなかったがずいぶん前進した。300年目で終わったのではなく今後も取り組みを進めていく展望ができたのではないか。
- ・ 歴史の問題はできるだけ最新の研究成果に基づいて、常に見直していく努力が必要である。

(b) 空間利用

- ・ 「川に親しむ」という子供に対する学習・教育という観点から、堤防に芝生を張りつめるよりも、なるべく野草的な植生をそのまま残すことが良いのではないかと思う。
- ・ 樹木があることによって、川としての癒しの景観が形成されている。河川の中における樹木の保護についてどう考えるか。
- ・ 水質浄化という意味でヨシ原の保護ということが非常に重要だと思う。水質浄化に係るヨシなどの保護を具体的なものとして施策的に考えていけるかどうか。
- ・ 整備計画のたたき台を示す中で、ヨシ原の保護についての河川管理者の考え方を示していきたい。

(c) 自然環境

- ・ 古代史において大和川にアユがいたかどうか。古代においてアユがいなかったとすると、何が原因だったのか。
- ・ 川の生物相は源流の姿を反映したものになるが、大和川本川は付替えられた時点で源流がもつ生物本来の姿から大きく変えられており、歴史と人がつくりだした川ということが非常に興味深い。

- ・川はきれい、汚いというだけでなく色々な要素を持っていると思う。きれいな水にしようというのであれば浄化センターなどの技術的な面で可能だと思うが、それだけではない川の姿というものを私たちは目指しているのだと思う。
- ・多自然工法などの場合でも、工事する地点に本来どういう生物がすんでいたかをまず調べて、それに即したものとすべきである。
- ・大和川では河川の中に河川浄化施設が多く造られているが、それらは生物の生息環境にとってどうなのか。
- ・大和川の直轄区間にある河川構造物が、生態の連続性にどのような影響を与えているかを検討した結果はあるか。
- ・検討は十分ではないと思われる。人間を含めた生態系という観点から、それぞれの流域にキャパシティーがあると思う。大和川はキャパシティーをかなり上回っている部分があるのではないかとこのところから議論をする必要がある。

(d)水質

- ・大和川では、水が滞留して水質が悪くなっているのが、出来るだけそのような場所を少なくしてほしい。
- ・堺市常磐町の捷水路によって水害対策はすすんでいるが、水がよどんで悪い影響が出ている。ファブリダムの設置場所見直しなど、改修時期には検討の余地があるのではないか。
- ・狭山の下水処理場の下流でなぜ、水質が悪くなっているのか。
- ・下水処理場の下流域の排水が流入する関係や、下水道の接続率の課題がある。

2. その他

第5回大和川流域委員会は3月14日に王寺地域交流センターで開催予定であることが報告された。

以上